

受け継がれる技と精神

日刀保たたらで操業始まる

たたら製鉄技術の保存継承と、日本刀の原材料となる玉鋼を製造する「日刀保たたら」で、三昼夜にわたる操業が一月二十一日から二月七日まで、三回に分けて行われました。

一月二十一日に行われた火入れ式には、(公財)日本美術刀剣保存協会、靖国神社、日立金属安来製作所などの関係者約二十人が出席し、玉串を捧げ操業の安全と成功を祈願しました。

村下の木原明さんと渡部勝彦さんにより、「初種」と呼ばれる今年最初の砂鉄四キが、炎の吹きあがる粘土製の炉にくべられました。一回の操業で砂鉄十ト、木炭十二トを使用。不眠不休で炉に入れられ、四日目の早朝に鋼の塊である約三トの鋼が取り出されます。また、鋼造り工程で選別される約二・五トの貴重な玉鋼は、日本刀の材料として全国の刀匠へ、また一部分は高級茶の湯釜、文化財修復等に使用されます。

おいしい料理で心も体もあつたか！

「奥出雲横田まいもん小屋」大盛況

二月一日、「美味しいご縁にだんだん」と題した「奥出雲横田まいもん小屋」が、商工会横田支部の主催で、旧JAグリーンセンター(横田)において行われました。

会場には、横田支部に加盟する店舗をはじめ九店舗が出店し、し鍋やおでん、温かいおにぎりなど、趣向を凝らしたメニューや各店舗の一押しメニューを提供。来場者はお目当ての料理を購入しては、会場内に設営されたテーブル

で食べ比べをしたり、抽選会を楽しんだり、満喫した時間を過ごしました。

この日は、小雪が降る冷え込んだ天候でしたが、町内外から約九百人が訪れ、会場は大いに賑わいました。

加藤善章支部長は「二年越しの構想が実現でき、大変嬉しい。来年に向け、皆さんの期待に応えられるよう工夫し、地域を盛り上げたい」と熱意を語られました。



▲賑わう会場の様子



▲炉に砂鉄を装入する木原村下(左)と渡部村下(右)

世界各国から来訪されました

一月二十二日、ロシア・タタールスタン共和国から、同国の国名や同国に多く住む「タタール人」と「たたら製鉄」との関連性に関する調査のため、大統領側近のアイヌール・アイデルディノフ氏ほか三名が来町され、「たたらと刀剣館」を視察されました。

一行は、館長によるたたら製鉄の説明に熱心に耳を傾けられ、現地にもたたらに近い方法で営まれた炉が多く残っており、日本の侍の刀はタタール人の使っていた刃物と似ているといった共通点を指摘。更なる研究を決意され町を後にされました。

一月三十日、日本の中小企業のアセアン諸国での事業展開支援に向けたプロジェクト会議が玉峰山荘で開催され、島根県の招待により、タイ王国工業省プラモート・ビタヤサック副大臣が来町されました。

会議に合わせ、日刀保たたらで操業を見学され、翌三十一日に絲原記念館を視察されました。

タイ王国と奥出雲町は、そろばんを通じた交流の歴史もあり、副大臣は「ぜひ町民の皆さんもタイにお越しください」と今後の交流の発展に期待されました。



▲たたらと刀剣館を視察する訪問団一行



▲会議で挨拶をされるプラモート副大臣

日刀保たたらで映画「たたら侍」の撮影



錦織良成監督(出雲市出身)の最新作、映画「たたら侍」のロケが、「日刀保たたら」でのたたら操業に合わせ、二週間にわたり行われました。

一月二十一日の火入れ式の撮影に始まり、翌週の第二代の操業では、築炉、火入れから砂鉄と木炭の装入といった一連の操業の様子を二台のカメラを用いフィルムに収めました。三十一日早朝には、クレーンを用いて取り出された鋼を様々な角度から撮影されました。地元食材によるおにぎりや豚汁



▲炊出しを食べる監督ほかスタッフの皆さん

町営土橋住宅の建て替え工事が完了

八川地区にある土橋住宅の老朽化に伴う建て替え工事が、社会資本整備総合交付金事業により1月23日に完了しました。

新しい住宅はバリアフリー型の木造平屋建て全5戸で、そのうち1戸は車いすの方にも対応した造りとなっています。

所在地：奥出雲町下横田546番地6
概要：【建物全体】木造平屋建て(準耐火建築物)・瓦葺
【居室間取】2DK



▲建て替え工事が完了した町営土橋住宅